

氏破石に総裁自民

決選投票で高市氏下す 1日、首相指名へ

自民党総裁選は27日、党本部で投票され、石破茂元幹事長(67)が第28回目の投票で過半数に達した候補者はなく、上位2人による決選投票の結果、石破氏が高市早苗総裁の衆院解散・総選挙が取り沙汰されており、石破氏の判断に注目が集まる。



自民党の新総裁に選出された石破茂氏。27日午後3時23分、東京・永田町の党本部

破った。10月1日召集の臨時国会で、岸田文雄首相の後継となる第102代首相に指名される。早期の衆院解散・総選挙が執行部を充足させる。任期は2027年9月までの3年間。石破氏は党役員人事に着手し、新執行部を充足させる。

総裁選は岸田氏の任期満了に伴うもので、派閥裏金事件に端を発する派閥解消の流れを受け、過去最多9人の争いとなった。石破、高市両氏のほか、小林鷹之前経済安保相(49)、林芳正官房長官(63)、小泉進次郎元環境相(43)、上川陽子外相(71)、加藤勝信元官房長官(68)、河野太郎デジタル相(61)、茂木敏充幹事長(68)が立候補した。

衆院選を巡り、与党内には、首相の所信表明演説と衆参両院の代表質問の直後に解散すべきだとの声が強かった。10月27日や11月10日投票の見方がある。石破氏は「なるべく早期に信を問うのは当然だ」と述べていた。

5度目の挑戦で「最後の戦い」と位置付けた。首相在任中の憲法改正に向けた国会発議や防災省創設を掲げた。